

ウッタール・プラデーシュ州の BAMP（バライチヒ素汚染対策プロジェクト）



ウッタール・プラデーシュ州
バライチの人々は、路上劇
を通して、砒素が含まれた
水を摂取したら健康を害す
ることを知ります。（写真
撮影：プールヴァ・サガル
／OWSA）



路上劇は、JICA 草の
根技術協力事業で実施
されている BAMP（バ
ライチ砒素汚染対策プ
ロジェクト）による大
衆啓発活動の一部で
す。州内の 34 集落で
行っており、その多く
は砒素汚染が確認され
る場所です。（写真撮
影：プールヴァ・サガ
ル／OWSA）



BAMP はプロジェクト
エリア内にある水源を全
戸調査しました。ネワダ
村バサウナにあるこの写
真の家は、公設井戸を使
用しているのですが、そ
の井戸は高い濃度で砒素
が含まれています。(写
真撮影：マドウスミタ・
ハザリカ/OWSA)



BAMP 活動の成功の一つ
は、ネワダ村のダニブル
ワ集落にある GSF と
いうろ過装置の設置で
す。集落の住民がこのフ
ィルターの維持管理をし
ています。(写真撮影：
プールヴァ・サガル/
OWSA)



ダンニプルワ集落のバイドナト・シンさんは村単位で形成される砒素汚染対策委員会のメンバーです。2009年にBAMPが実施したバングラデシュヘスタディツアーにも参加し、砒素が引き起こす被害を実際に見たことがあります。その経験を生かして、シンさんは村人にろ過装置を通した水を飲むように勧めています。

(写真撮影：プールヴァ・サガル/OWSA)



シンさんが信頼するろ過装置を設置したのは、BAMPでサブ・プロジェクト・マネージャーを務める矢野靖典さんです。矢野さんはテストキットを用いて、50ppbという高濃度の砒素汚染水がろ過装置を通過して浄水になっていることを確認しています。(写真撮影：プールヴァ・サガル/OWSA)



バライチの公道に設置された啓発看板は、砒素汚染水を飲用することで生じる被害を訴え、浄水を使用することを呼びかけます。ですが地域の識字率は低いので、メッセージを確実に人々に届けるのは容易ではありません。（写真撮影：プールヴァ・サガル/OWSA）



BAMP スタッフのシャルミラさん（左から2人目）は、フリップチャートを使って、村の女性たちに砒素被害について説明します。女性を啓発することは家庭全体の健康に繋がるからです。こうした実例の写真をみることで、砒素汚染水が健康被害を引き起こすということを理解していきます。（写真撮影：プールヴァ・サガル/OWSA）



BAMP は啓発活動の一環で、砒素汚染に関するポスターを配布しています。(写真撮影：マドウスミタ・ハザリカ／OWSA)



バサウナ集落のある家族とアルミナフィルター (AAF) です。こうした AAF は州政府によってバライチ県に 800 基設置されました。BAMP は行政と協力して、人々への啓発活動とフィルターの維持管理の指導をしています。(写真撮影：プールヴァ・サガル／OWSA)